

古民家マップ再調査の報告

<広報渉外委員会>

平成25年1月～2月調査

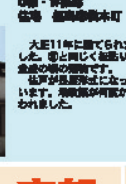
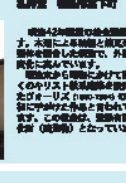
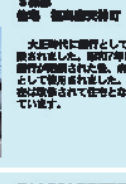
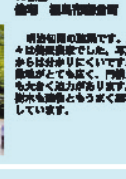
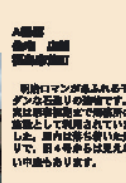
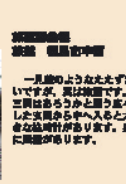
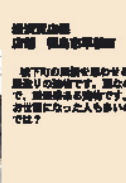
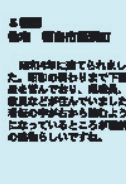
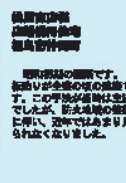
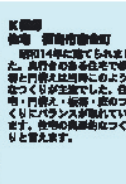
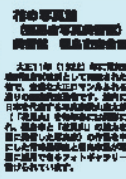
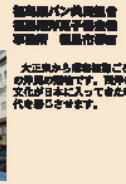
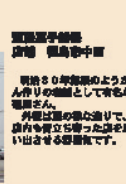
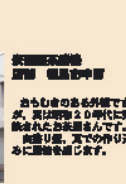
2005年 4月 ふるさと散策『福島古民家まっぷ』を発行して以来の追跡調査

なぜ古民家マップの再調査をするのか。

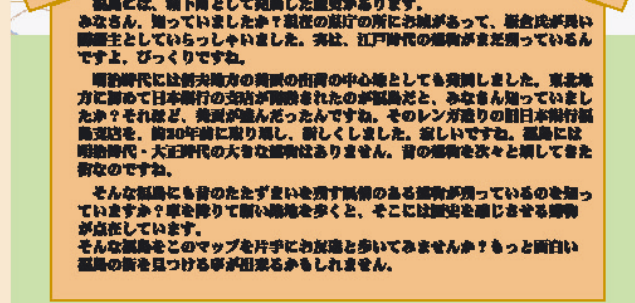
- 2011.3.11発生の東日本大震災以降の古民家の現状はどうなっているのか
- 発行より8年経過した現在、古民家を含めたの街の姿はどうなっているのか
- 青年部の活動広報資料のひとつとして現状を把握する事があってよいのでは 等の意見、要望があり再調査の運びとなった。

1 一斗 和

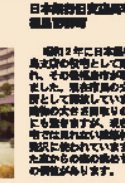
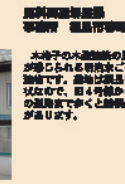
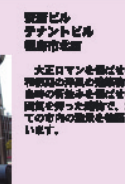
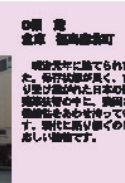
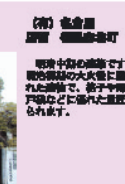
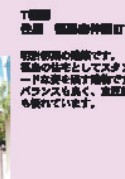
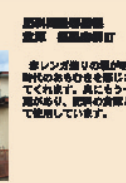
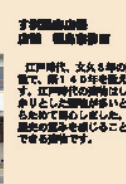
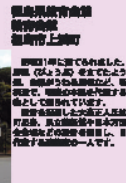
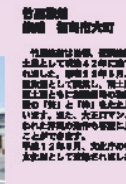
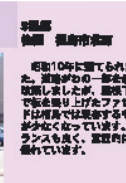
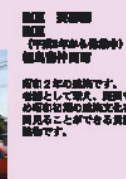
1 一斗 和

[illegible]

100



1



古民家の現状

福島市北部

8 件中 **5 件** が現存し、内一件が今後解体される可能性がある。

福島市東部

1 3 件中 **7 件** が現存。（マップの③番は4棟とカウント）

福島市北部

1 0 件中 **6 件** が現存。

古民家の現状

調査全体での現存する古民家は、
31件のうち18件が現存し、これは
全体の58%となる。

逆を言えば、震災の影響もあるので一概には言えないが
8年間の内に18件無くなっており、これを年間の戸数
に換算すると2.3件のペース、10年で半数以上が無くなる
事になる。

福島北部 ①

花の写真館(福島市写真美術館) 美術館 福島市森合町



大正11年(1922)年に電気試験所福島試験所として開設された建物で、貴重な大正ロマンあふれる石造りの歴史的建造物です。館内には日本を代表する写真家秋山庄太郎氏(「花見山」を毎年春には撮影に訪れ、福島市と「花見山」の魅力を全国に発信した写真家)の作品を中心にした常時展示室と福島市民が写真展に活用できるフォトギャラリーが設けられています。

【 現在 】→あり (但し解体の可能性あり)

震災の影響により、玄関の石作り部分に重大な損傷を受け、仮設で押さえている。現在福島市で保存か、解体かの検討中で未だ結論が出ていないとの事。

福島北部 ②

H様邸 住宅 福島市森合町



明治初期の建築です。元々は養蚕農家でした。写真からは分かりにくいですが敷地がとても広く、門構えも大きく迫力があります。樹木も建物ともうまく調和しています。

【 現在 】→なし(一部)
前方の蔵が解体され、塀が設置されている。奥の蔵は現存する。

福島北部 ③

K様邸 住宅 福島市森合町



昭和14年に建てられました。奥行きのある住宅で板塀と門構えは当時このようなつくりが主流でした。住宅・門構え・板塀・庭のつくりバランスが取れています。住宅の典型的なつくりと言えます。

【 現在 】→あり
特に変化は見られない。

福島北部 ④

S様邸 住宅 福島市天神町



大正時代に銀行として建設されました。昭和7年に銀行が閉鎖された後、病院として使用されました。現在は改修されて住宅となっています。

【 現在 】→あり
外壁に複数のクラックがあるが、コーキングによる補修が完了している。その他は特に変化は見られ無い。

福島北部 ⑤

松屋商店 店舗併用住宅 福島市仲間町



昭和初期の建築です。板貼りが全盛の頃の建築です。この手法が当時は主流でしたが、防火地域の整備に伴い、近年ではあまり見られなくなりました。

【 現在 】→なし

福島北部 ⑤

松屋商店 店舗併用住宅 福島市仲間町



昭和初期の建築です。板貼りが全盛の頃の建築です。この手法が当時は主流でしたが、防火地域の整備に伴い、近年ではあまり見られなくなりました。

【 現在 】→なし

福島北部 ⑥

日本キリスト教団福島教会 礼拝堂 福島布宮下町



明治42年建設の教会建築です。木造による軸組と煉瓦進の壁体を混合した構造で、外観も変化に富んでいます。明治末から昭和にかけて数多くのキリスト教系建築を設計したヴォーリス(1880ー1964)の最初に手がけた作品と言われています。この教会は、登録有形文化財(建造物)となっています。

【 現在 】→なし
震災以降に取り壊された模様。

福島北部 ⑦

S様都 住宅 福島市新浜町



昭和4年に建てられました。昭和の終わりまで下宿屋を営んでおり、県職員、教員などが住んでいました看板の字が右から読むようになっているところが戦前の建物らしいですね。

【 現在 】→あり
外観上は、特に変化は見られない。

福島北部 ⑧

○様邸・W様邸 住宅 福島市松木町



大正11年に建てられました。⑤と同じく板貼りが全盛の頃の建物です。住戸が長屋形式になっています。増改築が何度か行われました

【 現在 】→あり
外観上は、特に変化は見られない。

福島東部 ①

割烹 芙蓉閣(フヨウカク) 割烹 福島市仲間町



昭和2年の建築です。老舗として栄え、庭園も含め昭和初期の建築文化を垣間見ることができる貴重な建物です。

(平成8年から休業中)

【 現在 】→なし

道路拡張の区画整理で無くなってしまったと思われます。この場所が該当箇所なのかも判断出来ない程周囲の環境が変わっている。

福島東部 ②

T様邸 住居 福島市仲間町



明治初期の建築です。福島の住宅としてスタンダードな姿を残す建物です。バランスも良く、意匠的にも優れています。

【 現在 】→なし

区画整理で無くなってしまったと思われます。この場所が該当箇所なのかも判断出来ない程周囲の環境が変わっている。

福島東部 ③

茶舗 あづま園・越後屋・(有)大勝堂・(株)サカマキ 店舗 福島市上町



茶舗 あづま園：明治元年に建てられました。明治初期の大火から逃れた建物で、4つの店舗の一角を飾るのに相応しい建物です。

越後屋：明治10年頃の建築です。明治初期の大火後に建てられ、4つの店舗の中で唯一切妻造りの建物です。意匠的にも優れています。

(有)大勝堂：明治10年頃の建築です。明治初期の大火後に建てられた建物で、瓦屋根ではありませんが4つの店舗の一角を飾るのに相応しい店構えです。

(株)サカマキ：明治10年頃の建築です。明治初期の大火後に建てられた建物で、2階部分の格子などに優れた意匠が見られます。

【 現在 】→一部なし

古民家4件並ぶ内の一角、茶舗 あづま園がなくなり、駐車場となっている。

福島東部 ④

(有)名倉屋 店舗 福島市北町



明治中期の建築です。明治初期の大火後に建てられた建物で、格子や雨戸の戸袋などに優れた意匠が見られます。

【 現在 】→なし
隣の明治病院の駐車場になりました。

福島東部 ⑤

S様邸 住宅 福島市北町



昭和10年に建てられました。道路がわの一部を最近改築しましたが、屋根下まで板を張り上げたファサードは福島では現存するものが少なくなっています。バランスも良く、意匠的にも優れています。

【 現在 】→あり

変わり無し。

福島東部 ⑥

○様邸 蔵 倉庫 福島市北町



明治元年に建てられました。保存状態が良く、古より受け継がれた日本の蔵の建築技術の中に、強固さや機能性をあわせ持っています。現代に語り継ぐのに相応しい建物です

【 現在 】→あり

変わり無し。

福島東部 ⑦

竹屋旅館 旅館 福島市大町



竹屋旅館は当初、蚕繭(さんけん)施設の土蔵として明治42年に建てられました。昭和22年5月、竹屋旅館として開業し、南土蔵・西土蔵ともに創建当時の和風建設の「贅」と「粋」をたたえています。また、大正ロマンと謳われた洋風の造作も客室に見ることができます。平成12年9月、文化庁の有形文化財として登録されました。

【 現在 】→なし

震災被害により取壊しとなった。

今までこの建物が創建されたのが明治42年と伝えられてきたが、固定資産税の関連書類で、創建は明治35年とされている事が分かった。過去の登記簿をたどると、土蔵はもう8年古い明治27年9月11日にすでに登記されていた様です。

福島東部 ⑧

安斎ビル テナントビル 福島市北町



大正ロマンを偲ばせる昭和初期の洋風の建築物です当時の街並みを偲ばせる雰囲気を持った建物で、かつての市内の繁栄を物語っています。

【 現在 】→あり

ファサードの看板が撤去されている。

福島東部 ⑨

福島県教育会館 福島市上浜町



昭和31年に建てられました。屏風(びょうぶ)を立てたような側壁、曲線がうねる屋根など、斬新な構造で、戦後の本県を代表する建造物として知られています。設計を担当した大高正人氏は三春町出身。県立美術館や日本万国博覧会会場などの設計を担当し、日本を代表する建築家の一人です。

【 現在 】→あり

変わりなし。正面の緑地帯が無くなっている。

福島東部 ⑩

県の倉庫 倉庫 福島市舟場町



近年では珍しい赤レンガを使った倉庫で、堂々とした風格が感じられます。古き良き時代のゆっくりとした時の流れに思いを馳せることができる建物です。建築時期は不明です。

【 現在 】→あり
変わりなし。

福島南部 ①

岩沢質店 店舗 福島市早稲町



城下町の風情を思わせる蔵造りの建物です。蔵なので、重量感ある建物です。

【 現在 】→なし

震災の影響ではないが、老朽化、店の経営難により約10年前に解体されたとのこと。現在はお寺利用者の駐車場となっている。

福島南部 ②

安西園茶舗 店舗 福島市中町



おもむきのある外観ですが、実は昭和20年代に建築されたお茶屋さんです。白塗り壁、瓦での作り込みに風情を感じます。

【 現在 】→なし

震災の影響ではないが、老朽化、店の経営難により5・6年前に解体されたとのこと。現在は東邦銀行利用者の駐車場となっている。

福島南部 ③

旅館藤金 旅館 福島市中町



一見蔵のようなたたずまいですが、実は旅館です。三間はあろうかと思う広々した玄関から中へ入ると大きな柱時計があります。実に風情があります。

【 現在 】→あり

震災の際に2階屋根瓦が半分崩れ落ちた為、2階屋根部分全面カラー鋼板にて葺替えているが、趣きはそのままの姿で建存している。

福島南部 ④

菊屋菓子舗 店舗 福島市中町



明治30年創業のようかん作りの老舗として有名な菊屋さん。外観は蔵の様な造りで、店内も昔立ち寄った店を思い出させる雰囲気です。

【 現在 】→あり

看板の色が違いますが、調査当時のまま。

福島南部 ⑤

A様邸 住宅 店舗 福島市荒町



明治ロマンがあふれるモダンな石造りの建物です。実は昭和初期まで刑務所の施設として利用されていました。屋内は落ち着いた造りで、旧4号からは見えない中庭もあります。

【 現在 】→あり

調査当時のまま。

福島南部 ⑥

福島県パン共同組合・福島県洋菓子協会

事務所 福島市柳町



大正末から昭和初期ごろの洋風の建物です。西洋の文化が日本に入ってきた時代を感じさせます。

【 現在 】→あり

調査当時のまま。
ただし、事務所機能は別の建物に移動しているようです。

福島南部 ⑦

す枡屋商店 店舗 福島市柳町



江戸時代、文久3年の建設で、築140年を数えます。江戸時代の建物はしっかりとした建物が多いとあらためて関心しました。歴史の重みを感じることができる建物です。

【 現在 】→あり

外壁モルタルに補修の跡はあるが、現状では大きな損傷は見受けられない。

正面入口建具部分に補強柱が入っており、震災の影響である可能性も。

福島南部 ⑧

肥料問屋堺屋 事務所 福島市柳町



木格子の木造建築の風情が感じられる明治末ごろの建物です。敷地は細長い形状なので、旧4号線から東の道路まで歩くと結構距離があります。



【 現在 】→なし

以前の面影はなく、現代風の住宅に。震災による影響かどうかは確認できず。

福島南部 ⑨

肥料問屋塀屋 倉庫 福島市柳町



赤レンガ造りの塀が明治時代のおもむきを感じさせてくれます。奥にもう一軒蔵があり、肥料の倉庫として使用しています。



【 現在 】→なし

⑧番の住宅の駐車場となっている。

福島南部 ⑩

日本銀行旧支店長宅 福島市柳町



昭和2年に日本銀行福島支店の役宅として建築され、その後福島市が取得しました。現在市民の交流場所として開放しています。建物の大きさ間取りの多さにも驚きますが、現在の住宅では見れない建築材料が贅沢に使われています。また窓からの庭の眺めも一見の価値があります。

【 現在 】→あり

市民の交流の場として開放されている為、維持管理に手が届いているように見受けられました。
市民お茶会等のイベントも企画されていました。

古民家の定義(おさらい)

実は、古民家というのは、古い日本の伝統的な建築工法で建てられた建物というのとは何となく想像できますが、具体的な定義というものはありません。

国の文化財登録制度というものでは、登録することのできるものは建てられてから**50年以上経った建築物が対象**になっているようです。（昭和38年以前の建物が古民家となる）

古民家マップのこれから

定義からいえば、今回の調査中にふいに出会った趣のある古めの建物も実は古民家かもしれません。震災等の影響等によりマップ上の古民家が無くなってしまった事には非常に残念な思いですが、福島を形成する一つの要因として今後も古民家を見つめていく事も建築に携わる私たちに必要な事なのではないでしょうか。

調査後記

- 率直な感想としまして、私が担当した3物件の内、2件が取り壊されており、建存していなかったのが非常に残念かつ寂しく感じました。取り壊された2物件に関しては、震災の影響では無かったにしても建物の老朽化と建物維持管理他諸事情により余儀なくなれたものであることがわかった。震災が起きたからではなく、もう少し早い段階での古民家マップの見直しを行っても良かったのではなかったでしょうかと思いました。ともあれ、今後益々老朽化が進むであろう古民家において、どう維持をして、どう利用していくのがいいのか課題となっていくものと思われれます。
- 2011年の 未曾有の 東日本大震災でも 現存している建物がありました。日本建築は素晴らしいと改めて思いました。その先人達の知恵と技術を生かしつつ、自然に逆らわず、今後の建築にも生かしていければいいと思います。
- 区画整理などでかなり道が変わったのですね。歴史のある建物を見ると何故か心が和みました。今後残っている建物は綺麗に保存できたらと思います。
- 今回の調査で思ったことは、現在個人所有の古民家等ば、すべてではないにしても、新しくするに至らなかった経緯があるのではないかと考えられます。新しいものが日々生み出される中で、そこで生活をしていて、子供、孫と世代が変われば、今の生活スタイルに合った使い勝手の良い家を望むのが多数だと思う。見るだけなら古くて趣きがあると捉えられるが、当人たちはそうは思えないのではないかと考えさせられた。今回調査担当した古民家は肥料問屋で、現在では、個人の店舗として軒先で経営するには難しい時代であり、現在専用住宅となっている事で逆に安心してしまった。
- 率直な感想としまして、私が担当した3物件の内、2件が取り壊されており、建存していなかったのが非常に残念かつ寂しく感じました。取り壊された2物件に関しては、震災の影響では無かったにしても建物の老朽化と建物維持管理他諸事情により余儀なくなれたものであることがわかった。震災が起きたからではなく、もう少し早い段階での古民家マップの見直しを行っても良かったのではなかったでしょうかと思いました。ともあれ、今後益々老朽化が進むであろう古民家において、どう維持をして、どう利用していくのがいいのか課題となっていくものと思われれます。
- 調査した3件のうち、1件がなくなっているという結果になりました。なくなった1件に関しては、最初のうちどこにあるのか分からず戸惑ってしまいましたが、古民家マップ上の写真と見比べて場所が分かったとき、あまりの雰囲気の違いに驚き、建物が周囲の景観に与える影響の大きさを改めて感じることができました。
- 今回、実際に建物を確認するために担当エリアを歩いてみたのですが、思ったよりも古い建物が多いことにあらためて気づきました。また、このエリアは老舗の菓子屋、和紙屋、豆腐屋などが軒を連ねており、建物は新しくなっても、歴史を感じる町並みは健在でした。こうした歴史を記録に残す意味でも、古民家マップを作る意義はあるのではないかと感じております。